● 地域連携 ●

特色ある学校づくり
～土佐山学舎の「小さな学校の大きな挑戦」～

高知県　**高知市立義務教育学校土佐山学舎**（校長 竹崎優子）

○「土佐山学」の推進

○英語教育の推進

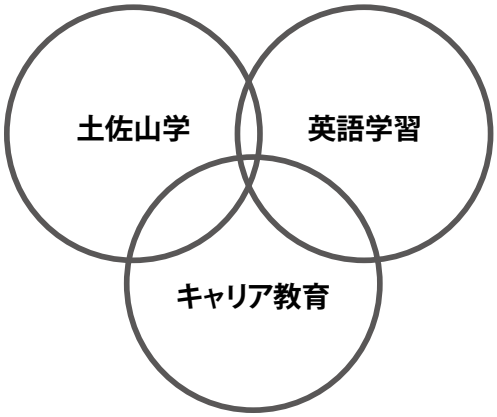
1．はじめに

本校のある高知市土佐山は、市街地から車で約 30 分程度の高知市北部にある自然豊かな中山間地域である。

高知市は平成 23 年に「土佐山百年構想」を打ち出し、土佐山地域における人口減少に歯止めをかけ、逆に交流・定住人口を増やすことで地域振興を図る取組を行っている。

本校は、この土佐山百年構想におけるプロジェクトの一つに位置付けられ、平成 27 年 4 月、施設一体型小中一貫教育校として開校し、その翌年には義務教育学校となった。「土佐山百年構想」に位置づけられている大きなねらいの一つは、地域振興・地域活性化の発信源を学校が担うことである。そのために、本校は様々なニーズに答えるとともに、これまでになかった新しい教育、他では見られない魅力ある教育活動を「挑戦」として掲げている。

高知市の中山間地域にある学校。



学校目標：「ふるさとに誇りを持ち、将来をたくましく、豊かに、勇気を持って生き抜く児童生徒の育成」

２．特色ある学校づくり

過疎の直面する学校が、地域の振興と活性化を目的として、特色ある学校の推進を行う。「ふるさとに誇りをもち、将来をたくましく、豊かに、勇気をもって生き抜く児童生徒の育成」を学校教育目標として、地域学習とキャリア教育を柱とした土佐山学（生活科・総合的な学習の時間）や英語教育の充実等、義務教育学校ならではの教育課程の編成を生かした取組により、その実現を目指している。

また、学校運営協議会制度を取り入れることで、幅広い地域住民などの参画による地域と学校とが連携・協働して、地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制を作るとともに、地域振興・地域活性化の発信源を学校が担うことで、地域の活性化を図ることにもつながると考えている。

３．研究の経過

キャリア教育における近年の取組：

(1) 東京証券取引所の学習プログラムを活用した取組：

商品開発をして販売するという起業の行程を体験させることで、創造性や探究心、情報収集・分析力や実行力などの起業家精神や起業家的資質・能力の育成を図った。

・体験プログラムの一環として模擬株式会社を設立。
・地元観光資源である「ゴトゴト石」をキャラクター化した商品開発、販売。

高知市観光協会で完成した商品をお披露目する生徒

(2) ゆず生産組合と協働した取組：

地域産業活性化のために、特産品であるゆずの販売促進のための取組を企画、ゆず生産組合とコラボして実施した。

・地域に発案したゆず祭りに、もっとたくさんの人に来てもらいたい、知ってもらいたいと高知市中心商店街にある「ひろめ市場」でのゆず祭り開催を企画。
・開催に向け、地域企業に出向いてのプレゼンによる資金確保と PR 活動を実施。
・ゆずのキャラクター画や地域の名所を取り入れたキャラクター作成とそれを生かしたパスポート制作、配付を行った。

土佐山ゆず祭りの様子

(3) 土佐山観光ツアーの実現：

土佐山の歴史、名所を広く知ってもらうために観光ツアーを計画・実施するため、地元の旅行会社から旅行の基礎を学んだ。

土佐山観光ツアーの様子

(4) 土佐山の木を活用したコサージュによるPR：

土佐山の森林を活用するために、加工の際に出る「かんなくず」を利用したコサージュづくりを学習し、それを使って土佐山のPRを行った。

(5) 土佐山地域の歴史や名所の案内看板の設置のため、こうちこどもファンドを生かした取組。予算獲得のためのプレゼンなども行い、予算獲得から設置実現まで、地域の声を聴きながら取り組んだ。

地域紹介の看板の設置

４．研究と教育実践のあゆみ

(1)「土佐山学」研究の取り組み

〈生活科・総合的な学習の時間〉

本校では、１～２年生の「生活科の地域の自然や人に関わる学習」、３～９年生の「総合的な学習の時間」を土佐山学という名称で呼んでおり、『探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する』ことを目標に取り組んでいる。

地域の豊かな資源・人材にかかわる活動を学習の中心に据え、１年生から９年生まで、９年間の学びのストーリーを描くことで系統的に学習している。

また、育てたい資質・能力を【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】の３つに整理し、ブロックごとに資質、能力の高まりを構造化し、９年間の見通しをもった資質、能力の育成を図ることとした。

＊土佐山学で大切にしている３点

①《地域の豊かな自然と人材の活用》

土佐山地域の人、自然、史跡、行事、食べ物等を核とした土佐山学を展開する。

②《１年生～９年生までの学びの系統性》

義務教育学校という特色を生かし、１～９年生まで系統的に学習することで、学びの質の向上を図る。

③《異学年交流を活用した効果的な授業展開》

発達段階に応じた資質、能力をより豊かに育むため、異学年同士の学び合いを仕組む。

主軸：《生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントの確立》学年の枠を超えた視点、教科の枠を超えた視点、さらに土佐山地域の物的・人的資源を有効活用するという視点を重視しながら、カリキュラムを編成し、その PDCA サイクルを確立する。

前期ブロック：土佐山に親しむ・知る

１年生「土佐山の自然に親しもう」
２年生「土佐山の名人に会ってみよう」
３年生「土佐山の魅力を紹介しよう」
４年生「ふるさとの川を未来につなげよう」

中期ブロック：土佐山を見つめる

５年生「つなごう！土佐山の魅力」
６年生「深めよう！土佐山の魅力」
７年生「極めよう！自慢の土佐山」

後期ブロック：土佐山に貢献する

８年生「土佐山活性化プロジェクト」
９年生「地域貢献プロジェクト」

大きな視点として、生まれ育った「土佐山地域」のよさを意図的に、発見して発信することを学習のポイントとする。

学習の過程では、探究の過程を辿ることにより、将来のキャリア形成に生かすことができる資質・能力を育成することを目標にしている。子どもたちは、企業や大人たちを対象に、プレゼンを行って自分たちの考えを提案し、ときには交渉するようなコミュニケーションの力を、教科のみならず学校教育全般で培っている。対象が外国人になれば、英語でのコミュニケーションになるので、実用的な場面での言語使用ができる英検２級合格が本校の外国語教育のゴールである。

土佐山学は単なる地域学習、ふるさと学習にとどまらず、地域理解、キャリア教育、コミュニケーシ能力の育成の三つを複合的に学習しながら、広く社会で活躍できるグローバルな人材の育成を目指す教育となっている。

「土佐山百年構想」を平成 23 年に打ち出す

第６学年
単元名「深めよう！土佐山の魅力」
～山の恵みで健康長寿～

１　単元設定の理由

本単元は、『昨年度出た課題の解決方法を考えよう』『深めよう、土佐山の魅力！健康長寿のお弁当』『自分を成長させよう』の３つから構成されている。

児童は、これまでの総合的な学習の時間「土佐山学」で「土佐山に親しむ」・「土佐山を知る」というテーマのもと、土佐山の特産品であるゆずや梅の収穫体験、地域探検、地域の伝統行事への参加など、様々な学習をしてきた。また、昨年度はこれまでに学んだ土佐山の魅力を詰め込んだお弁当を作って販売することで多くの人に土佐山

の良さを知ってもらうことができた。しかし、商品を販売するためのPRが十分でなかったことや、自分たちの考えたお弁当の良さや土佐山の良さを十分に伝えきることができなかった等の課題も残った。

そこで本年度は、お弁当作りや販売で出た課題をもとに、土佐山の食材の良さや健康への効果、食材の栄養価など、土佐山の食材そのものの魅力について考えさせたい。授業の導入では昨年のお弁当の取り組みを改めて考察し、成果や課題を振り返る。土佐山の食材の良さを深く知ることで、お弁当作りの観点が昨年度とは違ってくると考える。さらに土佐山には、元気な高齢者が多く、いつも生き生きとしている。元気の源となっている土佐山の食材が私たちの身体にもたらす効果とその関係性を家庭科の学習との関連を図りながら学習させていきたい。課題解決の際には、生産者の方の思いや料理の専門家の方と一緒に考えることで、昨年の学習よりブラッシュアップさせていきたい。

２　単元の目標

昨年度のお弁当販売の課題を解決し、より地域の食材を理解していく活動を通して、土佐山の良さを多くの人に知ってもらうための方法を考えて、土佐山の恵みの良さについて深く追究していこうとする意欲や態度を養う。

３　単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・地域の豊かな実りと課題とを把握し、解決していく中で、人々の努力やふるさとに対する思いが分かる。 ・追究していくための技能を身に付けている。	・問題状況の中から課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって計画をたてる。【課題設定】 ・地域の方や資料、コンピュータ等から必要な情報を集める。【情報収集】 ・課題解決をめざして、事象を比較したり関連付けたりしながら、整理・分析する。【整理、分析】 ・目的や相手に合わせて伝え方を工夫しながら、まとめ・発表する。【まとめ・表現】	・課題の解決に向けて探究的な活動に主体的に取り組もうとする。【主体性】 ・異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究的な活動に協働的に取り組む。【協働性】 ・実社会や実生活への興味、関心が広がり進んで地域活動に参加しようとする。【地域・社会貢献】

4　単元の主な流れ　（全 70 時間）

	単元	時数	指導上の留意点
主な活動内容	小単元Ⅰ（22 時間）『昨年度出た課題の解決方法を考えよう』		
	○オリエンテーション ・昨年度のお弁当の成果・課題を振り返ろう。 ○土佐山の食材の魅力を改めて考えよう。 ・なぜゆずやアユが有名になっているのかな。 ・おいしさだけが良さなのだろうか。 ○土佐山の食材の良さを伝える方法を練ろう。 ・ゆずやアユの栄養価や効能などを知ろう。 ・ヘルスメイトさんや生産者さんから学ぼう。 ○食材を効果的に食べられるメニューを開発しよう。 ・栄養バランスについて知ろう。 ・どんな食材を使いたいかな。 ・どんな人に食べてもらいたいか、おすすめするポイントは何か、具体的に提案する内容を考えよう。	1 3 8 10	○土佐山学のパネルや蓄積してきたファイルを見て、これまでの学習を振り返らせる。 ○地域の生産者の方やヘルスメイトさんに的確なアドバイスがもらえるように事前に連絡をとっておく。 ○家庭科の「くふうしよう、楽しい食事」と関連させて栄養バランスを学ぶ。
	小単元Ⅱ（38 時間）『深めよう、土佐山の魅力！健康長寿のお弁当』		
	○「健康長寿のお弁当」を作ろう！ ・今年度も協力していただきたい方に改めて依頼をし、今回の目的や魅力をプレゼンしよう。 ○「健康長寿のお弁当」を販売しよう。 ・自分たちの考えた健康のための「売り」をまとめて紹介文を作ろう。 ・販売に向けた準備を進めよう。 （道具の準備、セリフ･接客の練習、チラシの配布、本番のシミュレーション等） ・オリジナルのパッケージやPRポスターを作ろう。 ○お弁当販売を振り返ろう。 ・終了後全体を振り返り、新たな成果と課題を確認しよう。	8 25 5	○児童が、自分たちがお弁当作りを依頼したいと考えるように仕組んでいく。 ○販売目的や PR の方法などを事前に考えておき、効果的に発信できるようにする。 ○昨年度のお弁当販売と比較しながら、今年度の成果を確認する。
	小単元Ⅲ（10 時間）『自分を成長させよう』		
	○これまでの学習を振り返り、発表会を開こう。 （自分たちのお弁当の取り組みを紹介しよう。） ○見つめてみよう将来の自分 ・友だちとの関わりを深め、自分や友だちのよいところを見つけよう。 ○１年間を振り返り、成長の跡を振り返ろう。 ～成果と課題を下級生に伝えよう～	6 2 2	○土佐山学での関わりを振り返り、自他の成長に気付けるようにする。

6年生が考案した長寿弁当を、1月25日に地域の高齢者の方々に届けることができた。

第９学年

単元名「地域貢献プロジェクト」
～世界に発信！土佐山の魅力～

１　単元設定の理由

９年生は、７年生の時から土佐山の木の魅力を世界に発信しようと、自分たちで作った土佐山の「かなば」のコサージュをシンガポール選手団にプレゼントしたり、「かなば」の作成過程や自分たちの思いを英語でプレゼンテーションをしたりするなど、地道に土佐山の木の魅力を世界に発信してきた。昨年度は、さらに外国の人を対象に土佐山の魅力を伝えようと、土佐山ならではの活動を組み込んだ体験活動プランを考え、高知に在住の外国人（CIR）を対象に工石山で一日体験ツアーを行った。ツアーでは、教科で培ってきた英語力を生かし、説明や日常会話はすべて英語で行った。うどん打ちの説明やネイチャーゲームの説明など即興的な英語力が求められる場面でも、既習の英語やジェスチャーを用いて一生懸命説明する姿がみられた。

授業後の振り返りでは、「コロナの影響の中でも、実際に交流することで、土佐山の良さを知ってもらうことができてよかった」「小さなことからの発信だが、自分たちの目標が一歩進んだと思う」という肯定的な意見とともに、「数時間という短い時間や工石山という限定された場所だけで、土佐山の魅力を伝えられたのだろうか」「もっとたくさんの人に来てもらう方が、目的に近づくのではないか」などの課題も出された。

本年度は、昨年度の課題を解決するために、一泊二日のキャンプを企画実践させたい。もっと多くの人にできるだけたくさんの土佐山の財産を発信するためには、どのような内容にすればよいのかをじっくり追究させたい。キャンプの活動内容としては、まず、実際に土佐山の名所を案内させたい。また、地域ならではの体験活動を取り入れ、土佐山のよさをじっくり味わわせたい。さらに、地域の方と交流できるような場面を仕組むことで、人の温かさにも触れられるようしていきたいと考えている。

２　単元の目標

地域の良さや問題点を見付け、地域をPRしていく活動を通して、自分の生き方を見つめ直し、地域社会の一員として進んで活動しようとする意欲や態度を養う。

３　単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・土佐山の魅力を広げるために自分たちにできる方法を追究していくことができる。 ・追究していくために必要な知識や技能を身に付けている。	・複雑な問題の中から課題を設定し、仮説をたて、検証方法を考え、見通をもって計画を立案する。【課題設定】 ・目的に応じて手段を選択し、解決に必要な情報を集める。【情報収集】 ・課題解決をめざして、事象を分類、比較、関連付けたり、因果関係を推測したりしながら整理・分析する。【整理、分析】 ・目的や相手に合わせて、伝え方を工夫しながら、的確かつ効果的にまとめ、表現する。【まとめ・表現】	・課題に誠実に向き合い、課題解決に向けた探究的な活動に主体的に取り組もうとする。【主体性】 ・課題解決に向けて自他の考えを交流しながら、探究的な活動に協働的に取り組む。【協働性】 ・自らの生活や生き方を見直し、地域のためにできることを話し合い、未来につながる考えを創造している。【地域・社会貢献】

4　単元の主な流れ　（全 70 時間）

	単元	時数	指導上の留意点
主な活動内容	小単元Ⅰ（10 時間） 『地域の一員としてできることは何だろう』		
	○オリエンテーション ・昨年度行ったツアーの成果と課題を振り返ろう。 ○土佐山の魅力を世界に広げるために、誰にどのように発信したらよいだろう。 ・土佐山のあらゆるよさを知ってもらうためにどんな工夫ができるのだろう。 （名所めぐり、地域の食材を使った昼食、工石山登山など） ○地域との交流を深めるための仕掛けを考えてみよう。 ・地域の方から学ぶ場面を設定しよう。 （柚子の収穫体験、四方竹の料理など）	1 3 6	○昨年の土佐山学のパネルや蓄積してきたファイルをもとに振り返りを行う。 ○これまでの国際交流で出された課題をもとに、解決できるような内容になるようゴールを明確にしよう。 ○地域一体型となるような国際交流を追究させる。
	小単元Ⅱ（35 時間） 『国際交流キャンプを企画、実施しよう』		
	○土佐山の魅力が伝わるようなキャンプを考えよう。 ・ツアーでの課題が解決できるようなプランになっているのだろうか。 ・土佐山の魅力が世界に発信できるキャンプ内容になっているのだろうか。 ○計画した企画をもとにシミュレーションをしてみよう。 ・出てきた課題を解決できるよう、企画を見直し、リハーサルをしよう。 ・実施までにどんな準備が必要だろうか。 ・外国の方を想定してリハーサルをしよう。 ○土佐山キャンプを開こう。 ○イベントの成果と課題を振り返ろう。	8 15 10 2	○事前に打ち合わせをすることで、思いが実現できるようにする。 ○地域の方々とも積極的に関わることができるイベントにする。 ○外国語科との関連を図り、説明文や発音などを指導する。 ○キャンプを通じて世界にどのように発信してほしいのかを明確にする。
	小単元Ⅲ（25 時間） 『なりたいな素敵な大人』		
	○実践したことを振り返ろう。 ～自分たちが実践したことは地域貢献につながったのか、検証してみよう～ ○これまでの学びを振り返り、まとめたことを発表しよう。 ○これまでの実践と自分の生き方を重ねてみよう。	5 10 10	○成果や課題が次年度に生かすことができるようにする。 ○目的や相手を考え、効果的にまとめて発表させる。

(2) 英語教育の取組

本校では、英語教育にも力を入れており、子どもたちが卒業するまでに英検２級の習得を目指している。2017年～2019年には、９年生は約85％が３級を得て、さらに約60％が準２級に合格し卒業している。毎年、２名から４名程度は２級にも合格している。

英検２級合格への挑戦については、当初はかなり難しいと考えていたが、英語部の生徒の頑張りで、毎年複数名の合格者が出るようになった。英語部の活動は、日々の英会話レッスンのほかに、英語検定と英語スピーチコンテストへの挑戦を目標に、休日も返上して取り組んでいた。英検準２級までは、中学校の英語の内容で対応できるが、英検２級になると、語彙も文法も高校で学習する言語材料が出てくるため、英語部では高校の教科書を使って勉強をすることもあった。自主的に問題集に取り組んだり、友達同士で教え合ったり、先輩が後輩に指導することもあった。そして、開校３年目に英語部の９年生５名全員が２級に合格した。この快挙を取り上げてくれた高知新聞の記者から感想を聞かれた生徒たちは、「準２級は英語が分かるようになる楽しさがあったけど、２級はいつまでも分からないことばかり。」、「準２級とは全然違う、すごく難しかった。」と答えている。これ以降、合格する生徒はほとんどが９年生だったが、なかには７年生や８年生で合格する生徒も出てきた。外国人教師との協働授業は、１年生から行われておりスピーチやプレゼンテーションも行われている。土佐山学の発表会を毎年全学年がポスターセッション形式で開催しているが、高学年では英語で発表を行っている。

土佐山学舎５人 英検２級
高卒程度の難関突破
英検２級の合格証書を手に喜ぶ生徒
（高知市の土佐山学舎）

2020年度（令和２年度）には、土佐山学の教育実践として、９年生が地域貢献プロジェクトにおいて、土佐山のPRを行う目的で「土佐山紹介の映像」を制作した。

「四国コンテンツ映像フェスタ2020」小中学校部門に作品を応募して、この映像を英語で報告する実践も行った。

令和３年度は、今までの実践の基に、下記のような目標を立て取り組んだ。

①英語指導のポイント

・指導目標のレベルを高くし、児童生徒の力を引き上げる工夫。１年生から英語でのスピーチ発表に挑戦
・既習事項にとらわれず、新出の英語にどんどん出会わせる。１～６年の授業のなかで、多量の語彙をインプット
・会話のやりとりの型（フォーマット）、英文の書き方の型の指導
・外国人（ALT、留学生、研修生等）との英語でのやりとりの機会をさらに増やす。

②本校の校区にある、工石山青少年の家で高知市教育委員会に派遣されているALTを中心に多くの外国人を招いての「国際キャンプ」を実施する。

下記は、コロナ感染症で「国際キャンプ」に代わる「土佐山ツアー」の取り組みを学力向上部が作成した新聞です。

November 2021

No. 7
学力向上部

Tosayamagakusha News

令和３年度の外国語だより第７号ができました！今回は９年生の「土佐山の魅力を伝えよう」紹介号です。９年生は土佐山ツアーを計画し、たくさんの ALT をお招きして、土佐山の魅力を伝えることができました。

On Friday, November 5th, the 9th graders gave a tour of Tosayama to 10 ALTs, 8 of whom recently moved to Kochi. Many of the ALTs have never been to Japan before and were very excited to learn about Kochi and Tosayama.

The 9th graders prepared for the tour over several weeks. The first stop was Gotogoto Rock and Yamamba Waterfall. Try as they might, even the strongest of the ALTs couldn't knock Gotogoto Rock off the cliff. The next stop was a yuzu farm. Some of the ALTs have never heard of yuzu, but the students' explained the fruit very well and gave clear instructions on how to pick yuzu. After that, the ALTs and their student guides went to the Shobu Cave area, where they enjoyed grilled ayu fish before going into the cave.

Soon, it was lunch time. The group enjoyed a delicious long-life bento designed by the 6th graders, who put a lot of thought into the menu. Items included ayu fish, pickled yuzu and cabbage, square bamboo stir-fry, and yuzu jelly. Everything was delicious.

Afterwards, the 9th grades showed the ALTs how to play traditional Japanese games such as *kendama* and *koma* (spinning tops). When asked about it later, the ALTs shared that they particularly enjoyed this section of the tour because they got to have fun with the 9th graders while learning about Japanese culture.

Then it was off to Tonton Shop and Auberge Tosayama Hotel, where everyone enjoyed an exquisite yuzu chiffon cake with edible flowers.

Soon, the tour was over. The 9th graders' practice and hard work really paid off. They were able to share all kinds of things about Tosayama in detail with the ALTs, who were delighted to learn and experience all of it. The students must have been nervous, but they were excellent tour guides. The day was a huge success. Thank you, 9th graders!

11 月 5 日(金)に 9 年生は 10 人の ALT を土佐山のツアーに招待しました。日本に来たばかりの ALT が多く、高知と土佐山のことを知ることができるのをすごく楽しみにしてくれていました。

9 年生はこの日までに数週間かけて準備をしてきました。ツアーの最初はゴトゴト石とやまんばの滝。もちろん、誰もゴトゴト石を落とすことはできませんでした。次は柚子農園。柚子の事を知らない ALT もいましたが、9 年生は柚子の事や採る方法を上手に説明してくれました。そのあとは初めて食べる鮎と菖蒲洞見学でした。

あっという間に昼食の時間になりました。6 年生が考えてくれた長寿弁当をいただきました。その中には鮎、四方竹、柚子ゼリーなどが入っていました。どれもとてもおいしかったです。

昼食が終わったら、9 年生が ALT に日本の昔の遊びを教えてくれました。けん玉、コマ、だるま落としなど。ツアーの終わりに聞くと、ALT はこの昔遊びコーナーがとても楽しかったそうです。9 年生と遊びながら日本の文化を体験できてとても喜んでいました。

遊びの後はとんとんの店で買い物。そして最後にはオーベルジュ土佐山のカフェでおいしい柚子シフォンケーキをいただきました。

楽しかったツアーはあっという間に終わりました。9 年生の練習と努力のおかげでツアーは大成功でした。土佐山のことを ALT に詳しく説明できたこともとても素晴らしかったと思います。緊張していたかもしれませんが、9 年生はみんな最高のツアーガイドでした。
ありがとう 9 年生！

9th Graders and ALTs at the end of the tour. What a fun day!

Practicing for the tour with Mr. Nagano

ALT's first ayu fish

Gotogoto Rock

５．おわりに

本校は、平成 26 年度から学校運営協議会制度を導入し、平成 30 年度には、学校支援地域本部事業（令和３年度からは、地域学校協働本部事業に移行）を受けることによって、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働できている。学校運営協議会の委員は、コミュニティ・スクール推進員、地域住民、保護者、管理職で構成され、会は年間６回開催している。地域学校協働本部は、学校運営協議会制度を導入すると同時に作られた「課題別コミュニティ」の組織をそのまま移行させ、『学びコミュニティ』、『生活・安全コミュニティ』、『連携教育コミュニティ』と三つの部会があり、保護者や地域住民とで各部会７～８名で構成されている。読み聞かせや丸つけボランティア、あいさつ運動、防災学習、クラブ活動の支援等、授業や学校行事への参画・協力、本校の教育活動全般に関わってもらっている。

特に、土佐山学の授業では、米や野菜作りの講師、地域の名所や旧跡、特産品についての指導者、そして、子どもたちが考えた土佐山を PR するアイデアやイベントの提案に対しての助言者・支援者として、関わってくれている。

学校が開校して７年目になり、地域や保護者の方々の協力で、地域とともにある学校づくりができている。また、土佐山学を中心にした学校の取組みを地域が喜んでくれており、「子どもたちに負けられん。地域もがんばらなければ。」という声も聞かれる。「社学一体」の理念が受け継がれてきた土佐山だからこそ、土佐山学舎がこの地にある意味がある。

「社学一体教育」とは、地域社会から学び、学校で学ぶ、地域ぐるみで「学び」を通したまちづくりを推進する教育である。さらに、『土佐山は、水の源泉であり、土佐山は、自由の源泉であり、土佐山は、教育の源泉となる』という考え方から、自由民権運動を源流として、地域の様々な団体活動が、現在の土佐山学舎の教育活動へ綿々と続いている。

感染症の学習を実践していく中で、北海道坂本龍馬記念館主催「第六回手紙コンクール」に応募して入賞した生徒の作品を紹介する。【北海道知事賞】（高知市立義務教育学校土佐山学舎 中学１年）『私たちの生きている 2020 年では多くの問題が世界中で起こっています。一つは、新型 コロナウイルス感染症が世界的に流行しています。それにより、人の「気持ち」に、大きな 影響がありました。一日中マスク生活の日々、このような日常によって起こる恐怖から、不安な気持ちになりました。二つ目は、厳しい環境問題です。地球温暖化が進み、例年に比べて、非常に気温が高い夏となりました。日本を襲う「台風」が大型化して、多くの被害が出 ています。また、流氷がとけ、北極熊の居場所が失われつつあります。2020 年では、人々の知恵と努力によって、多くの問題が解決して、日本、世界の人々 が豊かな気持ちをもって生活していることを願います。私たちの「やさしさ」や「思いやり」の心は、月日が経っても変わることなく、しっかりと続いていると思います。一人一人の思いやりの心が平和へとつながります。ずっと、平和にしていってください。』

「土佐山学」の推進と英語学習の推進とを核として実践・研究することが、土佐山学舎の児童・生徒の自信と誇りとなり、地域の活性化につながっている。

（校長：竹崎優子）